

国語科書写学習指導案

日 時 平成26年6月18日(水) 第5校時

指導対象 4年2組 22名

指導者 略

1. 単元名 点画の方向「麦」 (光村図書 4年)

2. 単元の見込み

- 左右に並んだ二つの左払いの方向を、関心をもって確かめようとする。

[国語への関心・意欲・態度]

- 左右に並んだ二つの左払いの方向の違いを理解する。

[言語についての知識・理解]

- 左払いの方向に気をつけて書ける。

[言語についての技能]

3. 児童について

本学級の児童は、学習に積極的に取り組む児童も多く、授業中に発言する様子も見られる。しかし、書く作業に対しては消極的で、ノートに筆記する際も丁寧に字を書くという意識に欠けている児童が多く見られる。

書写の授業では、はじめに書いた字と手本を比べてちがうところを見つけることにはまだ慣れておらず、そのため発言も出にくい。しかし、どこを見たらよいのかポイントを伝えることで、ちがいを発見できる児童も出てきた。

自分の思うような字になるまで書き続ける児童と、そうでない児童の差が大きい。積極的に楽しく字が書けない児童は、集中力が続かず、字を書くことに対して消極的なため、投げやりになる児童もいる。文字を丁寧に書こうとする意識をつけさせるため、連絡帳の文字が丁寧なとき花丸をつけている。しかし、丁寧さや文字を書く姿勢にはまだ課題が見られる。

また、漢字に対して興味関心を高めるために、ゲームの要素を取り入れている。これには意欲的に取り組む児童も多く、漢字・文字に対して親しみをもてるようになっている。さらに、書写の授業を通して書く楽しみをつかませたい。

4. 単元について

今まで毛筆の授業では、ひらがなの折り返しと結びを、また前単元では画の接し方、また3年生においては筆圧の強弱について学んできている。本単元では、二つ並んだ左払いの画の方向の違いについて学習する。「冬」のような「上下にならぶ左はらい」は、下の左払いを長くし、間が広がるように書く。「夏」や「麦」のような「左右にならぶ左はらい」は、間が狭くなるように書く。それぞれの「はらい」の穂先の動きにも気をつけさせたい。「左払い」は、徐々に穂先を離して弱くしていき、「右払い」では、一度止めてから払う。本単元のポイントは、点画の方向の違いと、穂先の動きにある。

5. 指導について

指導については、手本なしで書いた作品と手本とを見比べ、違いを児童がを見つけ、自ら課題をもたせるようにしたい。その上で、二つ並んだ左払いの間隔が狭くなっていることに気付き、実際に書く際に意識しながら書き進められるようにしたい。また二つ並んだ左払いの方向の違いが理解できない児童には、点画模型を用いて視覚的に方向の違いを示して支援する。

二つ並んだ左払いの方向以外にも、払い方を意識できるように空書をしたり、字形を整えられるように文字の形を囲みバランスを確認したり、書く際の基礎基本も押さえたい。

6. 単元の評価規準

	ア 国語への関心・意欲・態度	イ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	① 二つ並んだ左払いの方向について関心を持ち、自らの課題を見つけようとしている。	① 二つ並んだ左払いの方向について理解している。 ② 二つ並んだ左払いの方向に気を付けて書くことができる。

7. 観点別評価の進め方

観点	B おおむね満足できる状態	A 「十分に満足できる」状況と判断される視点と具体的な姿勢の例 C 「努力を要する」と判断された児童に対する手だて
ア①	B 二つ並んだ左払いの方向について関心を持ち、自らの課題を見つけようとしている。	A 二つ並んだ左払いの方向の違いを見つけ、積極的に発表したり、他者に教えたりしている。 C 手本と試書の字を見比べるポイントを指摘し、違いを見つけさせる。
イ①	B 二つ並んだ左払いの方向について理解している。	A 二つ並んだ左払いの方向を理解して書くことができる。 C 点画模型を使い、二つ目の払いの角度を変えて、視覚的に理解につながるようにする。
イ②	B 二つ並んだ左払いの方向に気を付けて書くことができる。	A 二つ並んだ左払いの方向を表現し、字形を整えて書くことができる。 C 一緒に筆を持って書くなど、個別に支援する。

8. 指導と評価の計画（全3時間）

時	○ねらい ●学習活動	評価規準と方法	指導上の留意点 つまずきへの手だて
1	<p>○二つ並んだ左払いの方向の違いを知る。</p> <p>●「麦」を試書し、手本と見比べて、気付いたことを手本に書き込み、発表する。</p> <p>●教科書p10を開き、二つ並んだ左払いの方向の違いについて、学習する。</p> <p>●手を筆先に見立て空書し、二つ並んだ左払いの方向を確認する。</p> <p>●手本を見ながら、二つ並んだ左払いの方向に気を付けて、毛筆練習する。</p>	<p>ア一① (手本・発言)</p> <p>イ一① (発言)</p> <p>イ一① (練習書き)</p>	<p>・払いの方向や穂先に焦点をあてればよいことを助言する。</p> <p>・p10にある「夏」と「冬」の違いについて、考えさせる。</p> <p>・「麦」は「夏」と同じ払いであることを確認させる。</p> <p>・つまずいている児童には、点画模型を用いて、点画の方向によるバランスの違いを視覚的に理解させる。</p> <p>・穂先の動きを意識するように声かけをする。</p> <p>・つまずいている児童には、手本を下に敷いて書くなど、個別に支援する。</p>
2 (本時)	<p>○二つ並んだ左払いの方向に気を付けながらまとめ書きをする。</p> <p>●前時で学んだことを確認する。</p> <p>●二つ並んだ左払いの方向や字形、払い方に気を付けて、まとめ書きをする。</p> <p>●手本を見ずに書いたものと、練習後の作品を比較し、どこが変化したか、発表する。</p>	<p>イ一① (発言)</p> <p>イ一② (まとめ書き)</p> <p>イ一① (付箋、発言)</p>	<p>・点画模型を用い、左払いの方向を確認させる。</p> <p>・つまずいている児童には、指で目安を示したり、一緒に筆を持って書くなどして、個別に支援する。</p> <p>・まとめ書きではどこに気を付けて書いたのかを確認させる。</p>
3	<p>○硬筆に生かす。</p> <p>●二つ並んだ左払いの方向の違いを復習する。</p> <p>●左払いの方向に気を付けて、書写ノートに鉛筆やフェルトペンで練習する。</p>	<p>イ一① (発言)</p> <p>イ一② (ノート)</p>	<p>・毛筆で学んだことを、全体で確認できるようにする。</p> <p>・丁寧に書くことを心がけるようにさせる。</p>

9. 本時案（2／3）

（1）本時の目標

- ・二つ並んだ左払いに気を付けて、「麦」のまとめ書きをする。

（2）本時の展開

学習活動	指導・支援上の留意点	評価規準と評価の方法
<p>1. 用具を準備する。</p> <p>2. 二つ並んだ左払いの方向について確認する。</p> <p>3. 本時の目標を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の初めに、用具の配置や置き方を配置の写真を参考に確認させる。 ・半紙は四枚用意させる。 ・前時に学んだ、左右に並んだ左払いの方向のちがいについて確認させる。 	<p>イー① (発言)</p>
<p>二つならんだ左はらいの方向に気を付けて「麦」のまとめ書きをしよう。</p>		
<p>4. 左払いの方向に気を付けて、まとめ書きをする。</p> <p>5. まとめ書きと前時に書いた試書を見比べ、どこが変化したか、付箋に記入する。</p> <p>6. 変化した点について発表し合う。</p> <p>7. 順序よく片づけをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢や持ち方の確認をする。 ・正しい姿勢・持ち方を確認する。 ・つまずいている児童には、形に気をつけて書くことができるよう指で目安を示したり、一緒に筆を持って書いたりするなどして、個別に支援する。 ・記入した付箋は、まとめ書きに貼るように指示する。 ・互いにどのような点に気を付けて書くようになったか意見交流できるようにする。 ・本時に学んだことを応用できる場面を、例を示して考えさせる。 ・墨のついた筆は、練習した半紙でふき取り、ペットボトルで洗う。 ・机上のものから段取りよく片づけるように指示する。 	<p>イー② (まとめ書き)</p> <p>イー① (付箋)</p> <p>イー① (発言)</p>

